

ヤマセ地帯における夏どりだいこんの作型

(園試、高冷地開発センター)

1. 背景と相らい

ヤマセ地帯において、夏期冷涼なヤマセ気象を生かして、夏どりだいこんの産地化が進められている。特に近年は青首だいこんの需要の伸びにとむない、耐病総太りを中心とした各種の青首だいこんが栽培されているが、は種時期に対応した品種の選定がなされていないことから、低温障害による抽白が多く、生産を不安定にしている。

そのため、ヤマセ気象に対応した作型と確立し、それに適応する品種を選定し、抽白のない安定した生産ができる技術と確立することが急務である。「やませ地帯等営農試験地」においては、昭和55年から夏どりだいこんの安定化について試験と実施してきたが、その成果が得られたので指導上の参考に供する。

2. 技術の内容

1) ヤマセ地帯における夏どりだいこんのは種期、収穫期、品種と次のとおりとする。

区分	は種期	収穫期	適応品種	安全最低気温の目安
①	5月中旬	7月中旬	春まち	7.5℃
②	5月下旬～6月中旬	7月下旬～8月上旬	春宮	8.0
③	6月下旬	8月中旬～下旬	背みの2号	13.0
④	7月上旬	8月下旬～9月上旬	耐病総太り	14.0

2) 適応地域

北部沿岸(ヤマセ地帯)及びこれに準ずる冷涼地

3. 指導上の留意事項

1) 抽白と温度との関係については、は種後15日間の平均気温と最低気温が影響するとされているが、本試験における抽白関係については、現地試験での、抽白の発現と気温との関係から、は種期の安全最低気温の目安を設定した。

安全最低気温の目安は、は種後15日間の最低気温の平均と示したもので、この気温以上となる時期には種期を設定する。

2) 青首だいこんは比較的生育が早く、適期収穫を失うと裂根が出やすいので、収穫にあたっては特に注意する。

3) キスジノミハムシと徹底防除し、品質の向上をはかる。

4) 収穫期近くに茎葉が損傷すると軟腐病にかかりやすいので、管理作業に注意し、防除を徹底する。

4. 参考文献、資料

1) やませ地帯等営農試験地設置事業成績報告書 (昭55～59)

- 2) ヤマセ地域農業開発プロジェクト研究成績概要 (昭和57~59)
 3) 昭和57年度 指導上の参考事項 (耐病総太りのほ種期)

5. 試験成績

表1 収量調査(1)

昭 5 8				昭 5 9			
は種期	品 種	抽 台	10a当り収量	は種期	品 種	抽 台	10a当り収量
		%	kg				
5. 11	春まち	0	4,359	5. 7	春まち 春宮	16.9% 100.0	2,701 kg -
5. 19	春まち 春宮	0 0	5,071 5,066	5. 16	春まち 春宮	0 0	5,153 4,199
6. 4	春まち 春宮	0 0	3,777 3,289	5. 28	春まち 春宮	0 0	3,273 3,659

※ 収量は調整重(葉部10cm付)収量である。

表2 収量調査(2)

昭 5 7				昭 5 8				昭 5 9			
は種	品 種	抽台	10a当り収量	は種	品 種	抽台	10a当り収量	は種	品 種	抽台	10a当り収量
6. 8	青みの2号 耐病総太り	0% 2.5	4,161 3,466	6. 6	春宮 青みの2号 耐病総太り	0% 100 100	3,729 0 0	6. 5	春宮 青みの2号 耐病総太り	0% 0 5.0	4,186 3,055 2,243
6.18	青みの2号 耐病総太り	0 0	3,456 2,369	6.15	春宮 青みの2号 耐病総太り	0 40 100	3,873 1,841 0	6.15	春宮 青みの2号 耐病総太り	0 0 10.0	5,013 5,758 3,799
6.29	青みの2号 耐病総太り	0 0	3,416 2,553	6.24	春宮 青みの2号 耐病総太り	0 21.5 49.5	3,659 1,924 1,133	6.25	春宮 青みの2号 耐病統太り	0 0 0	4,010 5,677 3,071

表3 は種期別温度と抽台状況

年次別 は種期	は種後15日間の平均		主要品種別抽台率(%)					備 考	
	平均気温	最低気温	春まち	春宮	青みの2号	青みの	耐病総太り		
昭57	6. 8	16.2℃	12.4℃			0	5.0	2.5	田野畑村 浜岩泉試 験地
	6.18	14.6	11.3			0	2.5	0	
	6.29	18.1	14.0			0	0	0	
昭58	6. 6	14.0	11.3		0	100	100	100	"
	6.15	13.8	12.0		0	40	100	100	
	6.24	15.8	12.7		0	21.5	18.6	49.5	
昭	6. 5	17.6	13.6		0	0	0	5.0	"
	6.15	16.9	14.0		0	0	5.0	10.0	
	6.25	17.9	15.8		0	0	0	0	
59	5. 7	8.1	5.3	16.9	100				"
	5.16	11.1	7.7	0	0				
	5.28	15.5	11.8	0	0				

表4 は種期別抽台危険最低気温と危険率

は種期	危険最低気温と危険率			
	5月中旬 (5.15)	5月下旬/6月中旬 (5.25)	6月下旬 (6.25)	7月上旬 (7.1)
最低台危険 気温	7.5℃	8.0	13.0	14.0
危険率	10%	0	30	20

※上表の気温は、小本観測所の気象による。
 ※危険率は過去10年の小本観測所の気象による。